

令和4年阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
阿寒地域部会・摩周地域部会（合同開催）
議事概要

- 1 日時：令和4年11月25日（金） 14:00～16:00
- 2 場所：ニュー阿寒ホテル 会議室 花鳥風月
- 3 出席者：出席者名簿のとおり

■開会挨拶

- 北海道釧路総合振興局保健環境部 杉山くらし・子育て担当部長

■議題

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025の進捗状況について

- 環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 田中所長

（環境省直轄施設等の利用状況について）

- ・2022年の環境省の直轄施設の利用状況は、阿寒湖畔エコミュージアムセンターでコロナ前の2019年比で80%、川湯ビジターセンターは87.4%、和琴フィールドハウスが105.0%に回復。
- ・和琴のキャンプ場は、北海道、弟子屈町、環境省、三者協定により、RECAMPに管理運営を委託、サービスが向上し、2021年の利用者は2019年比でほぼ倍増。
- ・オンネトー野営場の休憩舎は、改修して供用再開。過去7年平均比で116.3%に増加。
- ・摩周湖カムイテラスは、摩周湖第一展望台に7月末、リニューアルオープン。2019年比77.8%、実感として、滞在時間が延びていると感じられる。
- ・ナイトタイムを活用した新たな取組、阿寒湖のカムイルミナは2019年34,160人に対し、2022年はクマゲラの繁殖活動により開始が遅れ24,337人、川湯の森ナイトミュージアムはイベント時期・内容の変更等もあり、2020年1,124人、2022年668人が来場。

- 足寄町役場商工観光室 門野主査

（UPI オンネトーについて）

- ・営業終了した飲食施設「オンネトー茶屋」の後継施設として、野営所に隣接した場所に休憩舎、通称「UPI オンネトー」を建設、今年6月開業。
- ・初年度は飲食のフルサービスとできなかったものの、飲料を中心に提供。
- ・あしよろ観光協会とアンプラージュインターナショナル（通称UPI）でパートナーシップを結び施設を運営、アウトドア用品の販売、レンタル運営、施設閉鎖後は道

の駅あしよろ銀河ホール 21 で販売を継続。

- ・休憩舎は携帯の電波が届かないため、Wi-Fi を提供。
- ・グリーンフットワーク、テントサウナ、焚火料理などのワークショップを月に 1～2 回程度、週末に実施。
- ・防災拠点として、防災用品を備蓄。雌阿寒岳で遭難者が出た時には、夜間にドローンの操作拠点として活用。
- ・利用者は、8,853 人（手動カウンター）、カウントができていない分とあわせると実際は 9,000 人から 1 万人ぐらいと想定。
- ・隣接のオンネット野営場利用者は、過去概ね 1,500 人から 2,000 人くらい、値上げにもかかわらず横ばい、4 割が道外利用者。

○ 弟子屈町役場商工観光課 秋山課長

(カムイテラスについて)

- ・摩周湖レストハウスを摩周湖カムイテラスとして改修、7 月 30 日、リニューアルオープン。
- ・屋上テラス、休憩ラウンジ、環境省連携による自然情報発信コーナーを改修整備。
- ・屋上テラスは、3 段階の構造で、一番前方のデッキは、景観を遮らないよう鉄柵を強化ガラスに変更、中間のデッキは星空観察に最適な緩やかな背もたれのソファを設置、最上部のデッキは前方にカウンターを設置し、様々なガイドのイベントにも対応できるよう、広さにゆとりを持たせた。
- ・休憩ラウンジには、大きなガラス窓を設置し、室内から摩周湖を絵画のように見ることが出来る。
- ・物販も一部変更し、ノンカフェインの地元産大豆を使った摩周珈琲、地域ブランドである摩周ルビーのイチゴ販売コーナーなども設置。
- ・環境省と連携として自然情報発信コーナーを新たに設置、周辺のトレイルマップや周辺で楽しめるアクティビティの情報を発信。
- ・リニューアル効果として、訪問者の滞在時間が長く、また、星空観察を目的とした来訪者が増えた印象。
- ・新たな取組として、レンタサイクルで摩周湖第三展望台まで行けるよう環境整備し、また、トレイルのゼロキロポストのサインを設置。
- ・9 月、10 月に、町民限定で摩周湖、硫黄山の駐車場無料化、来年度も 5 月と 8 月を除いて実施予定。

○ 自然公園財団川湯支部 大坂所長

(カムイテラスについて)

- ・駐車場の共通券で硫黄山に来た時に「摩周湖のテラスが大変良かった、デッキが大変良かった、すごく居心地が良い。」と評判はすごく伝わった。

○ 阿寒湖観光協会まちづくり推進機構 高田専務

(カムイルミナについて)

- ・1日当たりの来場者数は、2019年と2022年の比較で、約60%、カムイルミナの来場者数と阿寒湖温泉の宿泊者が連動して推移。
- ・チケットは直販(ルミナの窓口、公式ホームページ)が3割、旅行会社販売分1.5%、7割弱が泊まったホテルで購入、旅前の販売増が課題。

○ 摩周湖観光協会 渡辺会長

(川湯の森ナイトミュージアムについて)

- ・このプロジェクトは3年前、国立公園の自然を学ぶ体験コンテンツとして、コロナの中始まった社会実験的なプロジェクトで、2022年度のグッドデザイン賞を受賞、国立公園内をエンターテインメント化した新しい学びのデザインとして注目を集めた。
- ・夜間における国立公園の適切な利用方法や地域活性化への可能性を検討することを目的として、最小限の照明で硫黄山のライトアップや川湯温泉の森の特色を演出。
- ・川湯園地で行っている図鑑の森は10月14日から30日で開催、668人が来場。
- ・川湯園地の森のマルシェは10月15日に行い、町内から出店が11店舗、547人来場、売上金額が約42万円。
- ・硫黄山のライトアップは10月22日から30日の間で実施。
- ・温泉川のナイトウォークは10月29日に実施し、満員の15人が参加。
- ・経験を備えたガイドのみが硫黄山に入山できる認定ガイド制度の仕組みを整備し、2020年から実施しているアトサヌプリのトレッキングツアーは、催行日数30日間、参加人数が196人で1,591,000円の収入。

○ 秋山課長

(官民連携の利用拠点の再生(摩周・川湯)について)

- ・REVICが関わって7者で連携協定を結んだものの成果の一つとして、摩周湖カムイテラスの改修ができた。
- ・来年予定の硫黄山レストハウスの改修は、徐々にその連携の形が見えてきた。
- ・川湯温泉に関して、ステップアッププログラムの柱の一つである、川湯温泉の再生及び新たな魅力のブランド化の中で、環境省で、廃業したホテルの解体を華の湯、川湯プリンスの2件実施、跡地利用については、民間活用を予定。
- ・民間進出の条件や課題を整理している最中で、解決されたら、事業者、環境省、町で協定を結んだ上で公表予定。
- ・御園ホテル、川湯グランドホテルの跡地は町で取得し、現在、解体に向けて進めている。

- ・今後、川湯温泉全体のマスタープランを本年度中に立て、公共エリア、民間の商業エリア等々をゾーン分けし、5年間程度で整備する計画を検討中。

○ 高田専務

(官民連携の利用拠点の再生(阿寒)について)

- ・フォレストガーデンについては、アスファルトの部分の駐車場と歩道部分の桜並木は完了、インフォメーションセンターの計画は、コロナで一旦頓挫。
- ・アイヌの方々の拠点として、アイヌの方々の実際の製作作業をご覧いただくアイヌクラフトセンター(仮称)を整備中。
- ・フォレストガーデンについては、阿寒スタイルの道の駅など様々な意見があり、観光振興臨時基金の活用とリンクさせながら、整備を検討。

○ 美幌観光物産協会 信太事務局長

(トレイルネットワークについて)

- ・屈斜路カルデラ外輪山を結ぶトレイルルートの開通を目指している
- ・令和5年度開通を目標に、北側の藻琴山から美幌峠を經由して南の津別峠まで約23kmのうち、9割方、調査道としては開通し、ルートの選定も完了。
- ・課題が二つある。一つ目の環境アセスメントの問題は、最後の2kmほどの区間で希少植物群生地があり、調査が必要との指摘を受け、来年、取り掛かる予定。
- ・二つ目は、国有林内のルート予定地に、開発局が防雪柵工事のための作業道として借りているところがあるため、期間を区切り開発で契約期間変更することで話を進めたが、昨日、林野庁からNGだったため、違う形での貸付けを検討中(ルート変更も希少植物があつて困難)。
- ・他にもトレイルルート使用方法や管理運営母体の課題があり、当初予定の令和5年運用開始を令和6年に変更する予定。

○ 清里町役場 進藤主査

(トレイルネットワーク(裏摩周)について)

- ・本年度、摩周湖外輪山トレイルの整備の一部として、西別岳登山道から裏摩周展望台までの延長約5kmのトレイルルートの事前調査として笹刈りを実施し、想定していた3分の2ほど終了。
- ・展望台から西別岳までのルートのポイントは抑えられたので、来年度、残された笹刈りとルート確認を行い、森林管理署にルート確定のための諸手続きを行い準備を進めたい。

○ 阿寒湖管理官事務所 日比野管理官

(シュリコマベツ湾でのマリモの生息地再生について)

- ・阿寒湖西側のシュリコマベツ湾では、かつて球状マリモが生息していたが、木材伐採による土砂流入等で絶滅。
- ・環境省で球状マリモが生息していた頃の環境を再生しようと取り組んでいる。
- ・バラバラになったマリモを丸めて作成した疑似マリモをシュリコマベツ湾内に吊るし、生育実験を実施、1年で順調に成長しており、生息生育できる環境である可能性が高い。
- ・生育実験を行っている場所で、マリモ普及啓発検討協議会メンバー向けに現地見学会を実施、生育試験場所の活用方法やルールについて検討し、より良い利用のあり方や方向性を決めたい。

○ 釧路運輸支局若杉専門官

(アドベンチャートラベルについて)

- ・2次交通の周遊化について、道東は2次交通が脆弱と言われるが、今あるバス路線を観光客が知らなければ、無いものと同じであり、可視化により利用促進を図るという構想から始まっている。
- ・7社のバス会社が参画し、道東エリアにおける2次交通に関する特設サイトを開設、複数のバス路線などをオンラインで決済できる仕組みとするとともに、お勧めの周遊モデルコースを提案して案内。
- ・調査では、公共交通を利用した周遊観光情報の人気が高く、観光情報と公共交通の情報を併せて確認できること、事前決済、キャッシュレスへの評価が高い。
- ・今年度は、帯広、旭川、紋別空港方面へのバス事業者5者が加わりエリアを拡大、7月から10月の4ヶ月弱で約350人が予約、約70万円の売上（昨年度比2倍）。
- ・来年1月を目途に英語、繁体字バージョンのサイトを作成予定、外国人に対しても、路線の選択、決済、チケットレス乗車を可能とする予定。
- ・モデルコースの拡充も検討。
- ・非動力アドベンチャートラベルモデルルートの受入環境に関する検証事業として、昨年度は、網走市から釧路市までの206kmをトレッキング、サイクリング、カヌーで繋ぐモデルルートを作成。
- ・阿寒摩周国立公園トレイルネットワークで検討されているルートに関しては、地元に関わる歴史、国立公園としての自然環境があり、ただ歩くだけではなく、サイクリングやカヌーなど複数のアクティビティを楽しみながら、長い距離を移動できる環境は、阿寒摩周国立公園の魅力である。
- ・地域全体の関係者の巻き込み不足が課題で、ロングトレイルやATを地域で持続的に運営管理するためには、各関係者によるネットワークの構築が重要。
- ・今年度は、ロングトレイル等、ATツアーに対応するためのガイドライン作成に向けて取組を進めるとともに、ロングトレイルの有識者を講師として招聘し、来年2月にセミナーを開催予定。

○議題（1）について出席者からの質問等はなし

(2) 「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク」の形成について

○ 阿寒摩周国立公園管理事務所 末廣企画官

(トレイルネットワークの推進について)

- ・阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトのステップアッププログラム 2025 の重点施策にトレイルネットワーク構想を位置付け、3 空港を結ぶトレイルネットワーク構想として、取組を推進。
- ・トレイルネットワーク構想は、2019 年 7 月から検討を始め、2020 年に標識のデザイン等検討、2021 年 2 月に満喫プロジェクトの協議会にて推進を決定。
- ・今年度は課題等を専門家の方に見てもらったところ、地域の理解促進不足、情報発信拠点や管理運営体制の未確定、ブランディング・情報発信や誘客の他、1 本繋がったロングトレイルを推進すべきではないかとの指摘。
- ・トレイルネットワーク構想の中で謳っている地域の歴史や文化を体験できる街づくりを踏まえ、地域の魅力である阿寒摩周の火山地帯を満喫し、三つの国立公園を繋ぐということを考えながら今年度の事業に取り組んでいる。
- ・今年度は昨年度の指摘を踏まえ、釧路湿原と阿寒摩周と知床を繋ぐ三つの国立公園と街を繋ぐロングトレイルに北海道長距離自然歩道も活用して、釧路から羅臼までの 370 km ロングトレイルに挑戦する検討を開始。
- ・実際に私も 370 km の 7 割を専門家と同行して歩いたが、阿寒摩周のカルデラ、釧路湿原の湿原エリア、標茶の酪農地帯や清里の広大な畑作地帯、その先には知床世界遺産と、非常に魅力あるトレイルと感じた。
- ・今年度 11 月から関係自治体へ個別にヒアリングを始め、トレイルを推進している方やガイドも含めたトレイル交流会を開催し、2 月 4 日に釧路でトレイルに関する勉強会、シンポジウムを開催予定。
- ・こんな距離を歩けるのかなと思うが、ハイカー、ロングハイカー達は、300 km 以上ではないとその地域に行かないと言う。
- ・来年度は、この取組を具体的に進め、トレイルの管理運営組織、トレイルセンターの準備とともに、13 市町村にも及ぶロングトレイルを推進する協議会を立上げる必要があると考えている。
- ・トレイル憲章、トレイルの名称、ロゴマークなど、地域でのそれぞれのトレイルはそのまま続けながら、我々はそれを後押しするような全体的なブランディングを進め、広く発信して、三つの国立公園を歩くトレイルツアーができるようにしていきたいと考えている。
- ・一番心配されるトレイル道の整備や道を歩く時に目印になる道標の製作や設置は、

実際に歩いてみると、ほとんど国道、道道、町道で、阿寒摩周だけが国有林を歩くところが多いが、全体的に見ても、そんなにハード整備はいらないと考えている。

- ・更に目指すところは、それをツアーにする旅行会社等にたくさん活用してもらうことが最終目標と感じている。
- ・令和6年度の夏に全線開通を目指して取り組んでいきたい。

○議題（2）について出席者からの質問等はなし

(3) 阿寒摩周国立公園指定90周年について

○ 田中所長

(阿寒摩周国立公園指定90周年について)

- ・阿寒摩周国立公園は昭和9年に指定された日本で最初の国立公園のうちの一つで、令和6年に90周年を迎えることから90周年を祝いながら、指定100年に向けて、新しい一歩を踏み出すべく皆で取組ができるよう検討していきたい。
- ・記念式典や祝賀交流会がよくあるパターンで、シンポジウムやパネルディスカッションを開いて、これまでを振り返りながら、その時々の時流を踏まえ、これから先の展望を議論するといったようなことが10年毎に行われている。
- ・指定60周年時は、シンポジウムの他、公園の入口標識を整備、記念ハガキの発行、60周年記念を冠したイベント開催など多くの取組を実施。
- ・アニバーサリーでよくやる国立公園のマーク製作は、阿寒摩周は指定50周年の時にやっていた（今はそのマークを見ることはほぼ無い。）。
- ・同じく令和6年にアニバーサリーを迎える国立公園（道内）は、大雪山が同じく90周年、知床は指定60周年、利尻礼文サロベツは指定50周年。
 - ・令和6年は山の日全国大会が北海道で開催予定であり、皆で考えて何かをしたい。

○議題（3）について出席者からの質問等はなし

(4) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会の令和4年度スケジュールについて

○ 釧路総合振興局保健環境部環境生活課 木村課長

(スケジュールについて)

- ・来年2月、親会となる地域協議会を阿寒湖温泉で開催予定、内容はステップアッププログラム2025の進捗状況などを予定。

○議題（4）について出席者からの質問等はなし

(5) 脱炭素の取組について

○ 北海道経済連合会 石井氏

(脱炭素の取組について)

- ・北海道経済連合会は、500 数社の会員企業向けの情報共有や支援活動、中央への要望活動など展開。
- ・今年度よりゼロカーボン推進グループを設けて、北海道が掲げているゼロカーボン北海道の達成に向け、自治体と連携、伴走支援を展開。
- ・本日は、北電と札幌北洋リースと共同で取組を提案。

○ 北海道電力(株)経営企画室 伊藤氏

(EVカーシェアリングについて)

- ・カーシェア、エネルギーマネジメントを含めた各種システムの提供で実績のある REXEV、運用ノウハウも含めたカーシェアリングの提供主体として関わる北海道電力、車両メンテナンス、リース提供の札幌北洋リース、公用車の導入前の稼働分析の三井住友オートサービスの4社共同で、自治体向けのEVカーシェアリング導入を提案。
- ・提供する価値として、1点目が公用車の電動化とソーラーカーポート等産地消の再エネ有効活用による脱炭素社会実現への寄与、2点目が REXEV 社のシステムによる最適なEVの非常用電源としての活用、3点目が公用車として利用しない遊休時間を活用したカーシェアリング併用による地域観光振興、4点目が地域住民との共創による地域課題解決、住民参加型で課題解決の形、脱炭素の社会実現構築といったことを、一つのモデルとして、このスキームを活用できると考えている。
- ・導入メリットとして、一つは環境性、EVに切り替えていただくことでCO₂を環境中に排出しない、電源を地域の再エネから供給すれば、電力の産地消にもつながる、二つ目は、経済性の部分、公用車の台数最適化診断で具体的に車両の削減余地を検討し、コストダウンを図りながらEV導入が可能、三つ目が賢く充電時間を決め、電力ピーク制御による電気代抑制、また、ガソリン車プラス蓄電池購入と比較してもコストメリットがある。
- ・最後にスキームについて、北海道電力が事業者として、公用車として自治体向けに、カーシェアリングとして地域の住民さん向けに運用し、サービス、システムも含めて提供。
- ・太陽光電気の消費、その他再エネ電力の活用、地域の方向けのサービス、観光振興も含め、単純に車の購入だけでなく、いろいろと案件に応じて、補助金の活用も含め、相談・対応したい。

○ 議題(5)について出席者からの質問等はなし

■開会挨拶

○ 釧路自然環境事務所 川越所長